

令和3年度 神奈川県立菅高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

課題	法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	
目標	教育公務員として、わいせつ事案の根絶を含め、高い倫理意識をもって職務を遂行する。	
行動計画		検証結果
	<p>①定期的に事故防止会議等を設定することで、服務についての自覚と意識を高めていく。</p> <p>②職員同士が互いに信頼しあいながら、連携して仕事に臨める環境を作ることで、法令遵守の意識を高める。</p> <p>③教育公務員として公務内外において、常に高い倫理観をもって行動する意識を高めるため、定期的に不祥事（わいせつ事案等）防止について会議や職場討議を通して啓発していく。</p>	<p>不祥事防止について事故防止会議や職場討議を通して、倫理意識の醸成を図った。</p> <p>職員啓発資料や記者発表資料等の事例を紹介し、教育公務員としての自覚を促した。</p>

課題	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	
目標	常に相手の立場を意識した言動を心がけ、あらゆるわいせつ・セクハラ行為に対して許さない、見逃さないといった職場環境を整備する。	
行動計画		検証結果
	<p>① ハラスメントの意識を高めるために、機に応じて事例に基づいた情報提供や協議を行い、相互に認識を深めていく。</p> <p>② 人権研修等を通じて他者を理解し、思いやる気持ちを高めることで、ハラスメントの防止につなげていく。</p> <p>③ ハラスメントを受けたと訴える職員がいた場合、管理職との面談を速やかに行うことで、早期に対処する。</p>	<p>人権研修により他者を配慮する意識を深めた。</p> <p>職員啓発資料等により定期的に校内研修を行った。</p>

課題	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	
目標	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為が起きない環境を整える。	
行動計画		検証結果
	<p>① わいせつ・セクハラ行為の未然防止を図るため、準備室の窓は中が見えるようにする。</p> <p>② 密室で1対1の状況を作らないといったことなどの、基本的規範を徹底する。</p> <p>③ 生徒との SNS 等のやり取りは厳禁といった基本的な事項の徹底を図る。</p>	<p>校内巡視により準備室の廊下から目視できる状況を徹底した。</p> <p>基本的規範を徹底し、事故防止の環境を整備した。</p>

課題	体罰、不適切な指導の防止	
目標	生徒一人ひとりが置かれた状況を広い視野をもって理解し、個々の生徒に応じた適切な指導・支援を行う。	
	行動計画	検証結果
	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々の生徒に対する理解を深めるために情報交換や情報の共有を重視する。 ② 不適切な指導が発生しないよう、部活動などで複数の教員が生徒の指導に当たるといった体制を構築する。 ③ 体罰の兆候があるといった情報に対して問題が大きくなる前に、該当の職員と管理職で面談を行い、授業観察などをすることで改善の道筋をつける。 	生徒情報の共有化に努め、教員同士の協力を基盤とした生徒指導体制を整備したことで、適切な生徒指導・支援を行った。

課題	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	
目標	業務における留意点を明確にし、新たな情報を速やかに共有することで事故を未然に防止する。	
	行動計画	検証結果
	<ul style="list-style-type: none"> ① 昨年度の反省点や引継ぎ事項等をきちんと検証し、より安全で正確な作業手順に基づいた業務を行う。 ② 作業全体を計画的に実施し、留意すべき点について職員全体で周知徹底を図る。 ③ 新型コロナウイルスに関する県からの指示等を速やかに情報提供し、職員全体に共有することで事故防止を遂行する。 	成績処理業務、生徒指導要録、調査書作成において、作業手順の確認と点検により業務の効率化と事故防止の両立を図った。

課題	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	
目標	文書や電子データ、あるいは生徒の携帯電話の番号等も含めた個人情報の適正な管理を徹底し、個人情報の不適切な取扱いや流失等の事故がおきないよう未然の防止を図る。	
	行動計画	検証結果
	<ul style="list-style-type: none"> ① 個人情報を含む文書およびデータの適切な管理と廃棄を徹底する。 ② シュレッダーによる誤廃棄がおきないよう機に応じた適切な処置を施す。 ③ 事故防止会議等の職員研修を行い、個人情報に関する職員の意識を高める。 	個人情報の校外への持ち出し、返却に至る手続きを徹底した。試験答案の保管ルールを徹底し、紛失・誤廃棄防止を図った。

課題	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	
目標	交通法規の遵守の徹底を図る。	
	行動計画	検証結果
	① 事例の紹介や啓発ポスターの掲示などにより交通法令の遵守を啓発する。 ② 日常的に職員相互の声掛け等により、酒酔い・酒気帯び運転の防止といった意識を高める。	職員啓発資料を活用した職員研修を実施し、交通事故の防止に努めた。

課題	業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	
目標	グループ・学年・教科内で業務協力体制をより強化し、会議・打合せ等で職員の意識向上とモラルの維持を図り、組織としての業務遂行に自覚をもって取り組む。	
	行動計画	検証結果
	① 業務進捗状況・生徒情報等の共有化により業務に協力して取り組む体制を作る。 ② 相互チェックする際に、単なる作業に留まらず、常に問題意識をもってチェックするといった意識をもって業務にあたる。	会議・打合せ等での情報共有と協力体制の推進を図り、一体感ある学校運営に努めた。

課題	財務事務等の適正執行	
目標	会計マニュアルによる適切な私費徴収・執行事務を徹底する。	
	行動計画	検証結果
	① 業務執行体制（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）を確立する。 ② 速やかに伝票を作成し、執行、事後の処理といった各段階で複数によるチェック体制が確実にできるようにする。 ③ 会計業務の仕組み・手順について全職員が理解できるよう機に応じた説明会等を実施する。	校内マニュアルにより業務への理解を深め、適正な会計事務処理の徹底を図った。各監査並びに財務事務調査の結果を職員会議で共有し、業務改善に努めた。

○ 令和3年度不祥事ゼロプログラムの達成状況と令和4年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

- ・教育公務員としての自覚については職員会議等で教職員全体に繰り返し注意喚起を行い、意識の向上に努めた。生徒、保護者、地域住民からの信頼を基盤とした学校運営を行うためにも、引き続き取り組んでいく。
- ・入学者選抜については、職員全体の課題意識が向上しており、丁寧に業務遂行する体制が醸成されている。受検生の将来に大きく関わる業務であることへの認識を一層深め、引き続き取り組んでいく。
- ・会計事務については、財務事務調査の指導事項等により改善に努めたが、一部の支払いや精算報告に遅滞がみられた。引き続き改善に努めていく。

上記のとおりおおむね不祥事ゼロプログラムに沿った取組が成果につながっている。令和4年度不祥事ゼロプログラムの策定に向けての重点項目として

- 1 人権に配慮した教育活動、学校運営（不適切指導の根絶、ハラスメントの防止）
- 2 入学者選抜における事故の防止
- 3 適正な私費会計業務の推進

の三点について、強化項目として取組を推進する。